



野木小だより

平成28年8月10日
— 第5号 —
野木町立野木小学校長
江田 裕之

第1回学校評価を実施しました！

「夢や希望を持てる教育活動を通して、子どもたちや保護者、地域の皆様、教職員の幸せな時間づくりを応援します」

これは、今年度掲げた本校のビジョンです。これから30年後、最も大切な価値は「時間」であると考えました。30年後、現在の子どもたちが保護者になった時、本校で学んだことや思い出を自分の子に笑顔で語っている姿を想い描いています。

■学校教育目標（目指す子どもの姿）

- つよく 健康でねばり強い子
- あかるく 心豊かな子
- いきいきと 進んで学習する子

■目指す学校の姿

- 子どもが育ち、教職員が協働し、保護者・地域と連携する学校

本校では、学校教育目標を達成するために、4つの努力点で15の重点項目を設け、数値指標を掲げて教育活動に取り組んでいます。項目と数値指標は、昨年度の学校評価（児童の自己評価のうちよくあてはまる、だいたいあてはまるの割合）を基準に教職員で話し合って設定しています。

また、すべての教育活動は、「子どものためになっているか」を判断基準とし、絶えず工夫や改善に努めていこうと考えています。そのために、昨年度から学校評価を年2回実施し、指導方法の改善に生かそうとしました。

第1回目は、7月に児童と教職員による自己評価を行い、次のような評価結果が得られました。

なお、矢印は、昨年度との比較です。

1 行動しよう

（心身ともにたくましい子どもの育成）

【指標】	【自己評価】
外遊び・運動（90%）	93% →
好き嫌いなく食事（90%）	97% →
生活習慣（90%）	97% ↑
安全な生活（100%）	99% →

おおむねよい状態です。すべての学年で、「親子給食」を予定し、実施が始まりました。保護者とともに健康について考えるきっかけを作りたいと考えています。安全な生活については、具体的なめざす姿を示して児童を支援していきます。



2 見つけよう

（思いやりのある心豊かな集団づくり）

【指標】	【自己評価】
自分のよさ（85%）	91% ↓
学校が楽しい（90%）	92% →
あいさつ・言葉遣い（90%）	96% →
互いを思いやる（90%）	95% →

「互いを思いやる行動」、「学校が楽しい」に対して、「よくあてはまる」と回答している児童が7割、肯定的な評価が9割を超えており、大変よい状態であると言えます。今後も継続し、きめ細かな支援をしていきます。



3 深めよう

(分かる授業をとおした確かな学力の保障)

【指標】	【自己評価】
1行日記(70%)	85% 新
授業が分かる(80%)	97% ↑
読書が好き(80%)	89% →
家庭学習(80%)	93% ↑

すべての項目とも、指標を超えておりおむねよい状態です。家庭学習や読書など、



保護者の皆様の協力を得ながら進めていきたいと考えます。1行日記は、新たな取組です。習慣化しているため、今後は内容をさらに充実させます。

4 つながろう

(家庭や地域関係諸機関との連携による開かれた学校づくり)

【指標】	【自己評価】
学校の出来事を話す(100%)	89% ↑
各種たより(90%)	94% ↑
学校支援ボランティアの協力(90%)	96% ↑

「学校の出来事を話す」は、指標を下回っています。すべての項目で、昨年度の評



価を上回っており、保護者や地域の皆様との連携を意識した取組の成果であると考えます。学年だよりやホームページの内容など、少しずつ工夫を加えます。

自分の思いや考えを表現する経験を重ね、集会や校内放送の児童の言葉が確実に変わってきています。少しずつですが表現が豊かになっている事を嬉しく思います。

「ありがとう」の輪が広がっています！

1学期、「思いやり」というテーマをかかげて教育活動を進めてきました。人を思いやると、笑顔がたくさん増えます。心が元気になります。笑顔や元気のもとを作ってくれる「思いやり」あふれる人になってほしいと願います。児童一人一人の思いやりをカードに記入し、学校全体で一つに集めて振り返りました。



1年生が生活科「学校周辺の発見」の授業で校内を散策していると、そこに、給食の牛乳を搬入する業者の方が来校しました。「牛乳屋さんです。」と担任が児童たちに話すと、「いつもおいしい牛乳ありがとうございます。」と大きな声でお礼を言う児童がいました。すると、一人一人が次々に「ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝えて過ぎて行きました。

1日学校公開日に、4年生の親子給食がありました。「親子給食があって、とても嬉しいです。」とにこやかな表情で何人かの保護者の方が思いを伝えてくれました。児童たちも担任の表情もいつも以上に嬉しそうで、学校に笑顔が増えています。親子給食を支えている4名の調理員さんに「ありがとう」の気持ちとたくさんの笑顔をとどけてくれました。

新体カテストでは、6年生は1年生を、5年生は2年生を、4年生は3年生のお手伝いをしています。上学年の児童たちは、下学年の児童たちのお世話をしてあげる絶好の機会です。いつも以上にしっかりとした姿で頼りがいがあります。手をつないで導き、号令をかけて整列させ、分かるように説明していました。異学年の関わりの中で児童たちは大きく変容します。なぜならば、お手伝いをしてもらった児童は、「ありがとう。」という心からの言葉を伝えているからです。異学年のかかわり合いを大切に、これからも「ありがとう」の心を育てていきたいと思っています。